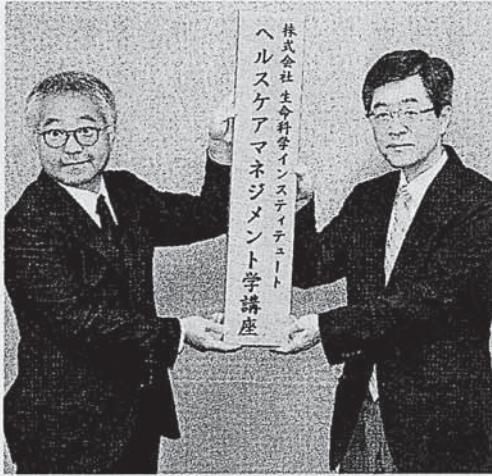


# ヘルスケアで研究講座

## 弘大医と生命科学インスティテュート

### 保健指導支援ツール開発



共同研究講座の設置開設式に臨んだ田中  
部門長(左)と若林医学研究科長

弘前大学大学院医学研究科と、生命科学インスティテュート(本社東京都)による共同研究講座「ヘルスケアマネジメント学講座」の設置開設式が2日、同大医学部で行われた。同講座では、県内自治体の国保データやレセプトデータの解析から、地域住民に対する保健師の保健指導支援ツールの開発などに取り組む。

(西尾 瑛)

ヘルスケアに取り組む体の国保データベーム同社は、健康づくり、レセプトデータ、に取り組み弘大COI 健診データを解析し、事業に参画している。地域の課題と対策の提

講座の開設は8月1 案ができるシステム構

日から2年間。各自自治 築や、重症化予防対策

に有効な保健師向けの指導支援ツールを開発する。同ツールでは、保健師が住民の健康指導を行う際に、タブレット型端末などを使って、より具体的に今の健康状態や今後の予測、必要な食事や運動などについて説明できるようにするもので、開発に向けてはすでに昨年から鱒ヶ沢町で取り組みを始めている。

設置開設式では、同社健康・医療ICT部門の田中智部門長が「多くのデータを連携させICT技術を用いて解析することで、地域の健康長寿のため利活用していただけるような新しいツールやソリューションを効果を

実証しながら開発してを務める同大学院医学研究科の中路重之特任教授は「データを見える化したものを住民にどのよう伝えるかが非常に大切。現場の人に役立つことを一つひとつやっていけば、最終的に医療、福祉、健康のネットワークにつながる」と話した。

同講座の研究代表者